

2012年岩手県消費者大会アンケートまとめ

2012年10月31日(水)サンビル7階にて

- 参加者： 約440名 アンケート回収 全体会:20枚 分科会:78枚 合計98枚
- 年代： 20代 1・30代 1・40代 18・50代 21・60代以上 50
- 性別： 女性 57・男性 9
- 消費者大会を知ったきっかけ：(1)所属団体の案内:79名 (2)生協のチラシ:12名
- 企画ごとの回答のまとめ:※自由記述分(事務局でまとめました)

(1) 全体会基調講演について

- ・ とても具体的でわかりやすい講演だった。(24名)
- ・ 復興活動に光が見えるようなお話で元気が出た。(2名)
- ・ 大変勉強になった。(4名)
- ・ さらに勉強が必要と感じた。
- ・ 今日学んだことを地域に持ち帰り広めたい。
- ・ テレビで報道されていないことを知ることができた。
- ・ 今までいろいろな勉強会、講演会に参加してきたが、今日の講演は地域住民を主体に復興(雇用問題、各企業の再建、農林水産、酪農家等、本当の地元再生のための具体的な)を何度も被災地へ出向き、実態を考慮した上での具体的な実践をすることが必要だということを知ることができた。
- ・ 大震災を冷静に直視し、どのような復興策がよいのか多方面から切り込み、問題点、今後の方策について分かりやすく話していただき、大変参考になった。今後の復興の進捗状況をしっかり見つめていきたい。
- ・ 復興のあり方、進め方、現状については連日報道され、住民も憂いているところ。おっしゃるところはすでに悩ましく、あきらめ感まである現状。さめかけてます。NHKも新聞も問題提起し連日投げかけられて住民も学習している。しからばどうするか…具体的に私たちに何が出来るか、行政に件に国に求めていくといってもどうするのか…講演ばかり聞いてもむなし…。もっと地元で復興に向け、生命がけで苦勞している人の話を聞きたい。講演を聞いて被災者が元気、希望が出るような内容に。
- ・ 復興全体の構造的な問題点が指摘されてよく理解できたのは大変ありがたかった。しかし、岩手県の現状、各自治体の状態、問題、の指摘があまりに具体性がなく、残念だった。一番ほしかったのは、何をすべきかを求めている人のための現在進行形の実践例があげられることだったと思う。
- ・ 震災復興に大切なことは、行政、政府からの支援を待っている、大企業優先の社会になってしまうので、私たち自身が知恵を出し合って自ら行政に要求することが大事だと思った。
- ・ 「創造的復興」ではなく「人間の復興」へというのがとても大事なことがわかった。今後も国や大企業、経団連などの動きに注目して自分たちがだまされていないか、幸せな暮らしができる研究をお願いします。
- ・ 被災地域外の大企業が多額の復興利得になるようなことはできるだけ避けてもらいたいと思った。また、復興予算の使途の流用がないように願っている。
- ・ 復興増税と言いながら、復興予算が他県や関係のないような事業に使われていることに憤りを覚える。真の復興のためには地元の人や企業を支援することの大切さもよくわかった。地元の自分たちが声を上げ、行動しなければいけないということも実感した。何が出来るのかを考えたい。
- ・ 現在の復興状況の問題点、官民ともに地域住民や被災者の実情をよくとらえることができた。特に政府や政策の誤りをどう正すかということがわかった。一日も早く被災者が心安らぐ日が来る事を願っている。山田の仮設に住む親戚が「年寄りはこちらから墓場に行くのか…」と嘆いている声を無視できないと思う。
- ・ このようなご意見を持った方の提言(案)をまったく取り入れない民主党政権、自民党とは一体何なのかとい

う思いになった。

- ・ 国はどうして先生の考えているようなことができないのか。自分たちのこと(利益)ばかり考え、被災地国民のことを考えてくれないのか、ますます怒りの思いが強くなった。国の勝手な暴走を止めてほしい。
- ・ 復興予算の流用や大企業中心の復興が行われるのは許せない。本当に被災地の立場に立った復興がすすめられるよう願うし、そのために自分もなにかしたいと思うが、盛岡に住んでいてどのように力になって言ったらいいのかと悩む。
- ・ 震災に便乗してゼネコン等が復興事業に参入してきている話は聞いたり読んだりしていたが、詳しく聞くことができさらに参考になった。今の政治のあり方を考える上で大変重要な視点になると思い聞いていた。
- ・ 復興予算の使い道が復興のために使われず、企業立地補助金に使われたことも知った。今後私たちが復興のために私たちの協同の力で少しでも復興のため協力していきたいと思う。
- ・ 復興予算の使い方に怒りを覚えるが、山古志村に学び、被災地の住民が主体的に動ける方法が必要。
- ・ 山古志村の歩んだ話を聞いて感激した。岩手県の被災地もそのように進んでいきたい。
- ・ 被災地発・一人ひとりの住民の生活を向上させる地域再生にむけた展望の内容は今まで聞いたことのないことだったので興味深くうかがった。多くの地域で住民自ら立ち上がって頑張っていることを知り、自分のこれからに何か活かされると思った。
- ・ 本当にどうして一揆をおこさないのか、なんておとなしい日本国民と思うような世情です。若い方々もこのようなお話を聞く場があるでしょうか。若い人々にも聞かせたいお話だった。
- ・ 三閉伊一揆に学び、被災地一揆の思いを実現できたらと思う。
- ・ 終わりに南部三閉伊一揆に触れられたのにはびっくり。感心しました。
- ・ 内陸に住んでいると自分のまわりのことではいっぱいになり、つい忘れそうになる震災、被災地のことを、自分のこととして考えなおすことができた。「公契約条例」をすんでいる自治体にぶつけない。
- ・ 先日大槌に行ってきたが現地を見てまだまだまだ…と感じてきた。内陸とあまりにも温度差がある。国には本当に真剣に復興のこと、被災地のことを考えてほしい。
- ・ 先日現地を訪れる機会があった。1年7ヶ月たった今、今日のお話の提案が活かされていない。なぜ？いろいろな経験から活かされているべきと思う。
- ・ 10/29 に被災地大船渡に健康チェックに行ってきた。案内チラシを入れて歩いたが商店街はひっそりとしていた。チェックに来られた高齢者の皆さんはとてもお話しがしたいということが分かった。まだまだ復興は絵に描いたもちだ。
- ・ 被災地にいながら復興の状況や問題点をわかっていなかったと思う。先生の講演の内容を充分理解できたとは思いますが、今日聞いてわかったこともある。資料を読み返して理解を深めたい。
- ・ 私は宮古市から参加した農家です。去年の災害では産直施設が被害を受けました。プレハブで仮営業中ですが、早く復興をと願っております。今日の先生のお話はとてもすばらしいと思いましたが、私たち農家が声を大にして訴えたいと思っても、機会がありません。自分たちより大変な思いをしている被災者のことを考えると強いこともいえない状況です。
- ・ 福島で震災にあいました。岩手県との被害状況、復興への道が少し違うと感じた。関西在住でここまでわかりやすく講演してくださるので勉強になったし頭が下がります。
- ・ 疲弊する地域経済をどうすれば活性化されるのかと常日頃思っていたが、今日のお話で「地域発展の決定は要素として“地域内再投資力”の量的質的形成があげられていたが、とても説得力があった。地域内経済循環を作り出すことで地域内再投資力は高まるとの指摘、納得した。
- ・ 地域内経済循環、本当にそう思う。わが町も高齢者の商店が多く、夏に薬王堂が開店したら予想していたが、ここまで…と商店さんも客もびっくり。こうなる前に地域循環できればよかったと思っている。

- ・ 地域内経済循環の考え方は、大震災の復興にあたってのことだけでなく、これからのあり方だと思う。やはりコミュニティごとに集まり、話し合い、夢を語り合う中で生まれる地域の形が実現する。それこそが明日への希望ではないでしょうか。
- ・ 「地域が豊かになる」とは、住民一人ひとりの生活が維持され向上すること、雇用効力の少ないハイテク工場が立地したとしてもそこで住民が住み続ける事ができないなら地域の「活性化」にならない、もっともそのとおりだと思う。地元の材料、地元の人材を役立てることだと思う。地域内経済循環を基本目標に！
- ・ 復興にむけて具体的な考え方、運動の起こし方がよくわかった。県への要請を今考えており、大変参考になった。特に「震災復興基本条例」の議会請願は取り組んでみたい。
- ・ 震災復興基本条例は実現してもらいたい。
- ・ 地域から声を出していくことの大切さ、被災地だけでなく過疎地も同じだと感じた。
- ・ 悲しい現実と日本人の底力ともいえる「協力」する心も持ち方に何か前向きな力強さを感じた。
- ・ これからの地域の発展のためには一人ひとりの力が大切と実感。子どもたちの将来のためにも動きたい。
- ・ 政治を変えなければ。次は選挙で改革を。
- ・ また来年度も1年後の様子を聞かせていただければと思う。

(2) 今後学習や運動をしたいテーマ

- ・ 復興がどのように進んでいくか、継続的にお話が聞きたい。(2名)
- ・ 今回に引き続き「大震災を越えて創ろう岩手の未来」第3弾(同じ内容)。(2名)
- ・ 震災復興基本条例、中小企業振興基本条例。
- ・ どうすれば先生等の主張が現実を動かす勢力を作り出すかを交流する。
- ・ 被災者への息の長い支援の仕方の実践。
- ・ 一揆をおこそう！国民の声を国政へ届け実現させる。
- ・ 平成の三閉伊一揆のような民・民と公の一緒に具体的な取り組みを学びたい。
- ・ TPPについて。(2名)
- ・ 地産地消
- ・ 各種商品の「明記」についての学習。「経皮毒」という言葉を最近知った。特に界面活性剤の有毒(身体に対する影響)について、あまり知られていない。また、製品には界面活性剤かどうか、よくわからない。胎児や臓器等への影響もただものではないものらしい。
- ・ 脱原発・原発廃止の運動(3名)
- ・ 放射能問題(2名)
- ・ 原発・自然エネルギー(2名)
- ・ 原発に頼らなくても良い状況をつくる方法があれば。
- ・ 原発ゼロにむけて(税金が高額だというスウェーデンのようなことも知った上で)
- ・ 再生可能エネルギーの可能性と具体化を含めた地域内経済の活性化について。
- ・ 地域分散自然エネルギーの創電
- ・ ILCについて ・生活保護 ・貧困について ・セーフティネット
- ・ 福祉関係を含めたテーマ
- ・ 消費税と社会保障 3名
- ・ 社会保障制度改革推進法について(午前のみ参加の方)
- ・ 資本主義の不条理さ(現在の社会の問題の現況は資本主義の利益至上の考え方だということを多くの人に知ってもらいたい)

- ・ テレビ放映、コメンテーターによる国民意識の操作について
- ・ 引きこもりについて
- ・ ADHD、学習障害、いじめなど学校での問題について(解決を学校だけにまかせてよいのか、当事者とその親だけでなく、保護者全体PTAとして何かできることはないか)
- ・ 老人問題
- ・ 一人は世界のために、そして世界全体が幸福になれるようなテーマ

(3) 分科会の感想

第1分科会： TPPを考える

- ・ 交流して反対運動に足を踏み出す勇気がわいた(ちょっと休んでいたのも…)
- ・ 皆さんの運動に対する熱い思いと危機感が共感できた。一緒にがんばりたい。
- ・ DVDで理解しやすかった。もっときめ細かい取り組みが必要だと思う。
- ・ みんなが怒っているのに政府の考えは変わらない。国民の事を考えてほしい。

第2分科会： 原発とエネルギー問題を考える

- ・ 基本がしっかりしていて情報をプラスして今があること、省エネについて子どもたちに教育(小さいときからの教育が大切)など実践してきたことのお話で目が覚めるようなことだった。 2名
- ・ エネルギーの自給自足までできるとはすごい。どこよりも先に取り組めた環境があつてうらやましい。町長をはじめ、町民のために安心安全で暮らせるまちづくりのために働く人々は町の宝。わが町も真似て町を発展させ安心して暮らせるまちづくりをしてほしい。
- ・ 熱いお話が聞けてよかった。首長であるような考え方ができるということはすばらしいと思う。多くの人に脱原発を訴えていきたい。
- ・ 流れるように明解なお話で大変感銘を受けた。
- ・ 同じ岩手県の葛巻町の取り組みをダイレクトで聞いた 40 年前の牧場開設からのとりくみ。環境に良い町の地道な努力と先駆者の英断。熱気あふれる中村さんのお話。熱血教師そのものである。手ごたえをしっかり受け止め、他の地域にもこのような話が広まれば、午前の講演とは違って明るい気持ちになれた。
- ・ 少しずつ薄れてきている放射能汚染について改めて考えさせられました。体に入ったものはどうしようもないということは大変なこと。もっともっと検査してほしい。

第3分科会： 放射能問題を考える

- ・ 放射能問題はこれから続く。我が家はあまり神経質な人がいないのでとにかくおいしく食べる事が病気にならないことだと食事している。牛乳も毎日自分の家のものをおいしく飲みすぎるくらい飲んでいる。いろいろな人のお話を聞くことができ本当によい一日だった。
- ・ 酪農家や野菜・米農家、消費者など、各地の方々の具体的取り組みがわかってとてもよかった。 7名
- ・ 生産者の立場、消費者の立場で考え方がそれぞれだった。生産者は生活がかかっているのでもやはり除染はするべきと思う。今後は全員で支えあいがんばりましょう。
- ・ 福島原発の事故がどれだけ大きなものだったか改めて知った。内部被ばくの怖さもよくわかった。軽減の仕方など勉強できてよかった。 2名
- ・ 不必要な内部被ばくを防ぐことが大事だと改めて認識させられた。子どもを持つ親御さんの不安は大変なものであることに国はもっと力を入れて対策を立てるべきだと思う。生産者・消費者とも被害者であります、原発事故による各地の放射能のデータなど、後々のために正確に科学的に記録すべきだと思う。

- ・ DVDをみて、放射能はしきい値がないという不安と、低線量被ばくの不安。これは福島3・11が起こってしまった以上、いかんともしがたい事実。生産者も消費者もここで暮らす人みんなが被害者。一国も早く原発ゼロしか本当の解決はない。
- ・ DVDでの説明がとてもわかりやすく、ためになる内容でよかった。多くの人に見てもらいたい。DVDに出ていた東大の児玉先生？のお話をもっと聞きたいと思った。
- ・ 原発もそうだが、自然界にも放射線がでていいる。身近な電気製品などから出ている。放射能のないところはないと思うので、極力浴びない努力が必要だと思った。
- ・ 放射能についてより詳しく知ることができた。放射能の事を知るたびに恐ろしくなる。
- ・ 目に見えない放射能、食品を50度洗い等で体内に入れないようにすることができることを知り、実施していくことで、少しでも安全な食事をしたい。
- ・ 福島で生活している現状の話、生々しい苦しい状態を聞き、マスコミの情報では得られないことを知った。
- ・ 一関はホットスポットなので、自分で身を守る方法をしなければならぬと思った。
- ・ 岩手は放射能に対して、危機感があまり強くないと思っていたが、皆さんの話から真剣にとらえていることを知った。
- ・ 東京の孫の家庭では九州産の野菜を買っているというのを聞き、いつまでそれを続けなければならぬかと考えさせられた。
- ・ 脱原発、原発ゼロを強く考えなければと思った。 3名
- ・ 可能な限り放射能の影響を少なくする事を心がけたい。
- ・ 生産農家の幸恵さんの報告は聞くのにつらかった。
- ・ 放射能と農業、生産物への影響を受け、作っても売れない苦しみをもろに味わっています。どうにもならないことにもがいている農家を救ってください！
- ・ 生産者の方の死活問題に触れた気がした。国の政策の方向がそもそも日本の農家をつぶすことに力を入れている気がする。日本の農産物が危険となればTPP推進に拍車がかかる。「TPPは日本の農業をダメにする」から反対しているが、日本の農業がダメという前提があればTPPオッケーになってしまう…。
- ・ 風評の影響の大きさが本当に生活に関わってきていることがわかった。子どもたちだけでなく、生産者も生きていくすべがなくなるとはやっていけないことが感じられた。国の政策をちゃんとすすめてほしいという話のしめくり、そのとおりですね！
- ・ 実態交流ができてよかった。実践しているお話がいろいろと出され勉強になった。 2名
- ・ セシウムの測定器を購入し、測定、給食に気を配っている様子、福島に住む子、孫たちが風評被害でいじめにあっているなど現状を知ることができた。
- ・ なんでも放射線測定でも地域の人々が地元議員さんや市町村・県にかけあってよい方向へ持っていくことが大切だと学んだ。
- ・ 意見として出された医療関係の方および学校教育関係の方との連携がぜひ次回までには組まれることを希望します。
- ・ 原発がなければおきなかつたことに対する憤りは、生産者消費者をこえて、国と原発と推進勢力にむけていかなければと思った。
- ・ 意見交流の時間が1時間以上あったが、パネリスト等もいなくて会場からの意見のみで1時間は長すぎると思う。最後にまとめる方がほしかったと思う。

第4分科会：生活保護と貧困を考える

- ・ 知らないことばかりだった。支援してくださっている方々のご苦労、すばらしいと思った。
- ・ 学習の必要性を感じた。

- ・ 非常に勉強になった。
- ・ 若者の 100 万円(年給)のアルバイト・パートの人の老後に心を痛めている。

第5分科会：消費増税と社会保障を考える

- ・ 医療費の改革の動向など知らなかったことが聞けてとても参考になった。
- ・ 非常に勉強になった。
- ・ 保険免責制度のことを知り、怒っています。
- ・ 消費税を増税しても、本来の社会保障が受けられるとは限らないということがわかり、大変なことだと思った。
- ・ この法案の下に流れる危ない目論見がわかった。
- ・ 医療費の負担はどんどん大きくなって滞納している人が 20%(盛岡)いると聞き驚いた。消費税は増税しても今までのように福祉や社会保障に使われるとは思えない。
- ・ 「社会保障制度改革推進法」なんとしても撤回させなければならない。
- ・ 社会保障制度推進法についてよくわかった。
- ・ 高齢者にやさしくない“明日”が待っていることを知り、がっかり。
- ・ 皆保険について考えさせられた。

第6分科会：未来の子どもたちに、平和な未来を引き継ごう

- ・ 原発、戦争、震災、さまざまな角度から学ぶことができた。
- ・ 参加者が少ないように感じた。一人ひとりの平和の姿を考えよう。
- ・ 人権が守られる世の中、一人ひとりの安全・安心を広げていくことが平和につながる。心にきざみました。
- ・ 何のこともそうですが、問題意識を持ちながら生活することの大切さがわかった。
- ・ 岩大生の発表を聞いて、大学生として平和についていろんなことを経験し、学習し、アクション、発信して行っているんだなあと感じた。社会人になって忙しくなり忘れる事もアルと思うが、思い出したときには伝えてほしいと思った。
- ・ 大学生の方の話を聞くことができた。被災地に入って思ったことや平和のセミナーに参加して感じたこと、若い感性のお二人の考えはとてもすばらしい。同じ年代の子どもがいるが、こんなにきちんと考えているのだろうかと思うこともあった。これからの岩手を日本を担っていく若い世代の子たちにがんばってほしいと思った。近年にない中身の濃い分科会だった。ぜひ来年も大学生の参加をお願いしたい。
- ・ たのしい大学生の発表にとってもあたたかいものを感じた。日本の将来捨てたものじゃない。
- ・ 学生たちが平和の大切さを何らかの形で伝えたいという思いで話してくださったことに、頼もしさを感じた。